

年金ってどんな制度?

年金は世代と世代の支えあい

公的年金制度は、現役で働く世代がお年寄りの世代の年金のお金を負担するという「世代と世代の支えあい」が基本になっています。年金のお金は、①お父さんやお母さん（現役で働いている世代）が働いて得た収入からの保険料、②みんなが納める税金でまかなわれています。

65歳以上人口（年金受給世代）
2,660万人（平成18年）



かつての日本では、祖父母、父母、子どもたちが一緒に暮らし、その中で家族が高齢者を扶養することが一般的でした。しかし、核家族化が進み、兄弟姉妹が少なくなっている現在、老後の生活を自分の子どもに頼ることが難しくなっています。

公的年金制度は、このような状況の中で、長い老後の生活を安心できるものにするため、社会全体で高齢者の生活を支えていく仕組みが必要であるという考え方のもとで形成されてきた制度なのです。



① 現役世代（20歳以上65歳未満）の支払う保険料
7,731万人（平成18年）

② 税金

公的年金制度とは

国民年金、厚生年金、共済年金って？

日本には、職業によって異なる3つの年金制度があります。

20歳になったら、国民年金への加入手続きが必要です。

国民年金

日本に住むすべての人が、20歳から60歳になるまで加入する年金のことです。将来基礎年金を受け取ることができます。

厚生年金

サラリーマン等が加入する年金のことです。将来国民年金に上乗せされた厚生年金を受け取ることができます。

共済年金

先生・公務員等が加入する年金のことです。将来国民年金に上乗せされた共済年金を受け取ることができます。



老齢年金、障害年金、遺族年金って？

年金には、老齢年金、障害年金、遺族年金の3種類があります。

老齢年金

年をとったとき（65歳になったとき）に受け取ることができます。

障害年金

病気や事故で障害が残ったとき、障害の程度に応じて受け取ることができます。

遺族年金

働いているお父さんやお母さんを失ったとき、残された家族が受け取ることができます。

どうして年金が必要なんだろう

平均寿命が伸びています。

平均寿命が飛躍的に伸び、老後に必要となるお金が昔より大幅に増えています。

子どもの数が減っています。

家族の人数が減り、兄弟姉妹の数も少なくなっています。このため、昔のように家族の間で、高齢となった親の生活を支えることは難しくなってきました。

将来の暮らしの予測は困難です。

何十年か先にある老後の物価や資産価値を予測することは困難です。

また、個人個人にとって何歳まで生きられるのかはわかりません。

これらのことを考えると、自分たちの力だけで老後の生活設計を行うことには限界があります。

サラリーマン世帯が増えています。

自営業者（農業など）が多かった昔に比べ、現在はサラリーマン世帯が増加してきています。サラリーマン世帯は、定年と同時に、収入がほぼなくなるため、老後の経済不安が深刻です。

公的年金制度がなかったら…



だから

社会全体で力をあわせて助け合うという「公的年金制度」の仕組みが必要不可欠です。

もし

保険料が納められないときは？

国民年金の保険料を払うのが経済的に苦しい人のために、保険料の免除制度があります。その人の収入に応じて、保険料が半額・または全額免除されます。また、お金のない学生には、学生納付特例制度、20歳台で保険料が納められない人には、若年者納付猶予制度があり、保険料を後払うことができます。保険料が納められないときは、これらの制度を活用しましょう。



ねんきんに関してもっと知りたいと思ったら
社会保険庁ホームページ (<http://www.sia.go.jp/>) を
のぞいてみてね